

2016年度(平成28年度)事業報告書

〔 自 2016年(平成28年)4月1日
至 2017年(平成29年)3月31日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究又は普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として、1984年(昭和59年)4月12日に設立された。

1985年(昭和60年)に第1回京都賞授賞式、第1回研究助成金贈呈式を開催し、事業を開始した。また、2011年(平成23年)4月1日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。

2016年度事業計画（概要）

I. 顕彰事業

1. 第32回(2016)京都賞受賞者を決定し、授賞式にて次の3賞を授与する。
先端技術部門 : 情報科学
基礎科学部門 : 生命科学(分子生物学・細胞生物学・神経生物学)
思想・芸術部門 : 思想・倫理
2. 第33回(2017)京都賞に向け、候補者推薦の受付及び審査選考を開始する。
3. 第34回(2018)京都賞に向け、審査機関委員を決定する。

II. 助成事業

1. 2016年度研究助成として、贈呈式にて研究助成金を贈呈する。
2. 2017年度研究助成に向け、申請書の受付及び選考を行い、助成対象者を決定する。
3. 2018年度研究助成に向け、選考委員を決定する。
4. 2016年度特別助成として、研究機関の事業援助及び国際相互理解増進のため、助成対象案件について審査及び助成を行う。
5. 2017年度特別助成に向け、審査委員を決定する。

III. 社会啓発事業

1. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動を支援する。
2. 英国「Kyoto Prize at Oxford」の活動を支援する。
3. 国際相互理解の増進、及び学術の振興に寄与する活動を行う。

I. 顕彰事業

1. 第 32 回(2016)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関による審査

国内、海外の有識者より推薦された候補者について、2015 年度に開催された各部門専門委員会及び審査委員会に引き続き、京都賞委員会を開催し、受賞候補者の審査を行った。

(2) 受賞者の決定と発表

2016 年 6 月 17 日開催の定時理事会において、第 32 回(2016)京都賞受賞者を下記 3 氏に決定し、同日の記者会見にて発表した。

①先端技術部門受賞者

金出 武雄 博士 (Takeo Kanade)

職 業：ロボット工学者

カーネギーメロン大学 ワイタカー記念全学教授

国 籍：日本

贈賞理由：

「コンピュータビジョンとロボティクス分野での先駆的かつ実践的研究」

コンピュータビジョンの基礎理論に根源的に貢献するのみならず、自動運転を含むそのロボティクスへの革新的な応用技術を次々に創出し、長きにわたってこの分野の発展の基礎を築きながら牽引し続ける傑出した先駆者である。

②基礎科学部門受賞者

本庶 佑 博士 (Tasuku Honjo)

職 業：医学者

京都大学 名誉教授

国 籍：日本

贈賞理由：

「抗体の機能性獲得機構の解明ならびに免疫細胞制御分子の発見と医療への展開」

クラススイッチ組換え機構とそこに働く AID を同定して抗体の機能獲得メカニズムを解明し、PD-1/PD-L1 分子の同定と機能解析によって新しいがん免疫療法に道を拓いた。その成果は広く医学・生命科学に影響を及ぼすとともに、医療へと展開されて人類の福祉に多大な貢献を果たしている。

③思想・芸術部門受賞者

マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士 (Martha Craven Nussbaum)

職 業：哲学者

シカゴ大学 エルンスト・フロインド法学・倫理学特別功労教授

国 籍：アメリカ

贈賞理由：

「ケイパビリティ・アプローチによる正義論の深化とその実践」

正義の基準に、合理的な諸個人間の社会契約に基づく平等にとどまらず、人が「何かになる・何かをする」潜勢能力（ケイパビリティ）を十全に開花させることを導入し、社会においてそれらが疎外されている弱者へのまなざしを備えた独自の正義論を提唱、社会的実践に開かれた議論を展開している。

(3) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第 32 回(2016)京都賞審査機関委員を下記の通り公表した。
(役職は公表時現在)

[京都賞委員会]

中西 重忠 (委員長)	京都大学 名誉教授
甘利 俊一	理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問
巖佐 庸	九州大学 大学院理学研究院 教授
梶山 千里	福岡女子大学 理事長・学長
榊 裕之	豊田工業大学 学長
佐藤 文隆	京都大学 名誉教授
長木 誠司	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
成宮 周	京都大学 大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター センター長・特任教授
野依 良治	科学技術振興機構 研究開発戦略センター センター長
森 重文	京都大学 高等研究院 院長・特別教授
鷺田 清一	京都市立芸術大学 理事長・学長

[審査委員会]

①先端技術部門

甘利 俊一 (委員長)	理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問
阿草 清滋	公益財団法人京都高度技術研究所 所長
有川 節夫	九州大学 名誉教授
喜連川 優	情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長
國井 秀子	芝浦工業大学 大学院工学マネジメント研究科 教授
根元 義章	情報通信研究機構 耐災害 ICT 研究センター 統括特別研究員
古井 貞熙	豊田工業大学シカゴ校 学長
安浦 寛人	九州大学 理事・副学長

②基礎科学部門

成宮 周 (委員長)	京都大学 大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター センター長・特任教授
審良 静男	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 教授
岩田 想	京都大学 大学院医学研究科 教授

上田 泰己 東京大学 大学院医学系研究科 教授
岡田 清孝 龍谷大学 農学部 教授
貝淵 弘三 名古屋大学 大学院医学系研究科 教授
三品 昌美 立命館大学 総合科学技術研究機構 教授
山本 雅之 東北大学 大学院医学系研究科 教授

③思想・芸術部門

鷺田 清一（委員長） 京都市立芸術大学 理事長・学長
猪木 武徳 大阪大学 名誉教授
小泉 潤二 大阪大学 名誉教授
坂元 ひろ子 一橋大学 名誉教授
島菌 進 上智大学 グリーフケア研究所 所長
野家 啓一 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 総長特命教授
山室 信一 京都大学 人文科学研究所 教授
吉見 俊哉 東京大学 大学院情報学環 教授

[専門委員会]

①先端技術部門

喜連川 優（委員長） 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長
今井 浩 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
高田 広章 名古屋大学 未来社会創造機構 教授
田中 利幸 京都大学 大学院情報学研究科 教授
徳田 英幸 慶應義塾大学 環境情報学部 教授
福田 剛志 日本アイ・ビー・エム（株）東京基礎研究所 所長
松井 充 三菱電機（株）開発本部 役員技監
美濃 導彦 京都大学 学術情報メディアセンター 教授

②基礎科学部門

岡田 清孝（委員長） 龍谷大学 農学部 教授
狩野 方伸 東京大学 大学院医学系研究科 教授
小原 雄治 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 特任教授
近藤 滋 大阪大学 大学院生命機能研究科 教授
杉本 亜砂子 東北大学 大学院生命科学研究科 教授
武藤 誠 京都大学 国際高等教育院 教授
濡木 理 東京大学 大学院理学系研究科 教授
萩原 正敏 京都大学 大学院医学研究科 教授

③思想・芸術部門

野家 啓一（委員長） 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 総長特命教授
伊藤 邦武 龍谷大学 文学部 教授
荻部 直 東京大学 大学院法学政治学研究科 教授

小林 傳司 大阪大学 理事・副学長
篠原 資明 京都大学 名誉教授
関根 清三 聖学院大学 大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科 特任教授
堂目 卓生 大阪大学 大学院経済学研究科 教授
若林 幹夫 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

2. 第 32 回 (2016) 京都賞授賞式及び関連行事の開催

(1) 受賞者歓迎レセプション

日 時：2016 年 11 月 9 日 (水) 18:30
場 所：京都ホテルオークラ
主 催：京都府、京都市、稲盛財団
内 容：受賞者の入浴を歓迎し、レセプションを開催した。

(2) 第 32 回 (2016) 京都賞授賞式

日 時：2016 年 11 月 10 日 (木) 15:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
受 賞 者：金出 武雄 博士 (先端技術部門)
 本庶 佑 博士 (基礎科学部門)
 マーサ・クレイヴン・ヌスバウム 博士 (思想・芸術部門)
出席要人：アレン・S・グリーンバーグ 駐大阪・神戸米国総領事
 末松 広行 経済産業省 産業技術環境局長
 大使・総領事関係者 34 名
 国会議員関係者 3 名
 学術・文化機関の長 49 名
出席者数：1,600 名
祝 辞：バラク・H・オバマ アメリカ合衆国大統領
 安倍 晋三 内閣総理大臣
内 容：国内及び海外から多くの招待者を迎え授賞式を開催した。式典では、井村裕夫会長から受賞者へ京都賞メダルとディプロマ、賞金 5,000 万円が贈られ、受賞者は受賞にあたってのスピーチを行った。また、内閣総理大臣と受賞国代表者から祝辞が寄せられ、受賞者の栄誉を讃えた。

(3) 晩餐会

日 時：2016 年 11 月 10 日 (火) 18:15
場 所：グランドプリンスホテル京都
出席者数：756 名
内 容：授賞式に続いて晩餐会を開催し、多くの出席者が受賞者を祝福した。

(4) 記念講演会

日 時：2016年11月11日（金）13:00

場 所：国立京都国際会館 大会議場

出席者数：1,300名

演 題：「素人のように考え、玄人として実行する：

楽しく役に立つビジョンとロボットの研究」 金出 武雄 博士

「獲得免疫の驚くべき幸運」 本庶 佑 博士

「人間的であろうとする哲学」 マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士

内 容：受賞者が上記のテーマで講演を行い、自らの研究や創作を通じて培われた人生観や世界観を披露した。

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、大学コンソーシアム京都、京都新聞、朝日新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、共同通信社、時事通信社、NHK、KBS 京都、エフエム京都

(5) 和輪庵夕食会

日 時：2016年11月11日（金）18:30

場 所：和輪庵

内 容：受賞者と受賞者家族を囲んで、懇親夕食会を開催した。

(6) ワークショップ

日 時：2016年11月12日（土）

場 所：国立京都国際会館、京都大学百周年時計台記念館

内 容：部門ごとに、受賞者による講演、研究者や専門家による講演を行った。

後 援：京都府、京都市、NHK

①先端技術部門「コンピュータビジョン研究が描く20年後の社会」

出席者数：160名

協 賛：映像情報メディア学会、画像電子学会、情報処理学会、電子情報通信学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本ロボット学会、ヒューマンインタフェース学会

②基礎科学部門「免疫分子遺伝学からがん制圧への道」

出席者数：370名

協 賛：日本癌学会、日本生化学会、日本分子生物学会、日本免疫学会

③思想・芸術部門「感情とコスモポリタニズム」

出席者数：210名

協 賛：政治思想学会、日本現象学会、日本宗教学会、日本政治学会、日本哲学学会、日本倫理学会、比較思想学会

(7) 京都賞ウィーク中の関連行事

① 京都賞 RITA フォーラムの共催

日 時：2016年11月13日（日）15:00
場 所：立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム
出席者数：100名
演 題：「利他×ケイパビリティー新たな世界への扉ー」
講 師：マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士
鼎 談：マーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士
後藤 玲子 一橋大学 経済研究所 教授
サトウ タツヤ 立命館大学 総合心理学部 教授
共 催：立命館大学稲盛経営哲学研究センター
内 容：ヌスバウム博士による基調講演や、研究者との鼎談を通して、より良い社会や人間の今後のあり方について考えるフォーラムを実施した。

② 高校フォーラムの開催

日 時：2016年11月14日（月）14:30
場 所：京都大学百周年時計台記念館「百周年記念ホール」
出席者数：京都府内7校の高校生390名
演 題：「京都賞受賞者を裸にする」
講 師：本庶 佑 博士
企 画：近藤 滋 大阪大学 大学院生命機能研究科 教授
共 催：京都大学
後 援：京都府教育委員会、京都市教育委員会、読売中高生新聞
内 容：本庶博士の研究業績の解説や、生命科学を学ぶことや科学者のあり方などについての質疑応答を通して、生命科学や理系研究職に対する高校生の興味・関心を喚起するフォーラムを実施した。

(8) 鹿児島での関連行事

「京都賞受賞者 鹿児島講演会」の開催協力

開 催 日：2016年11月16日（水）

場 所：鹿児島市民文化ホール

出席者数：1,800名

主 催：京都賞受賞者講演会実行委員会

内 容：鹿児島県、鹿児島市、鹿児島大学および鹿児島商工会議所が主体となって組織された「京都賞受賞者講演会実行委員会」による講演会の開催に協力した。併せて、社会啓発事業における青少年育成の観点から、世界の知性に触れる機会を提供することを目的に、鹿児島県離島の高校より計10校287名の高校生を講演会へ招待した。

(9) 広報

①テレビによる報道

授賞式は KBS、NHK、MBS（毎日放送）、BS ジャパン、記念講演会は KBS、高校フォーラムは NHK において、その模様が報道された。BS ジャパンは全国、それ以外は関西で放送された。また、鹿児島講演会については、KTS（鹿児島テレビ）および MBC（南日本放送）で報道された。

②新聞・雑誌等による報道

全国紙をはじめ通信社や雑誌、海外マスコミによる取材があり、授賞式およびその他の関連記事が国内外で多数掲載された。（海外でも WEB 中心に京都賞行事が紹介された。）また、京都新聞、毎日新聞、産経新聞、日経新聞、毎日新聞、読売新聞において京都賞受賞者の特集記事が掲載された。

(10) 京都賞街灯バナー及びデジタルサイネージの掲出

11月1日～11月17日までの期間、京都の幹線道路、烏丸通りの JR 京都駅から丸太町通りに至る 3.5km の区間と京都賞の主会場となった国立京都国際会館の専用道路の街灯 110ヶ所に、京都賞の開催を告げるバナーを掲出した。また、京都駅の地下鉄構内 24 面、国際会館地下通路 6 面にデジタルサイネージを掲出し、京都賞授賞式の開催や受賞者、京都賞メダル等を国内外の方々にアピールした。

(11) 米国での関連行事

「2017 年京都賞シンポジウム」の開催協力

開催日：2017 年 3 月 14 日（火）～16 日（木）

場所：カリフォルニア州サンディエゴ市

出席者数：2,000 名

主催：京都賞シンポジウム組織

共催：サンディエゴ州立大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、
サンディエゴ大学、ポイント・ロマ・ナザレン大学、稲盛財団

内容：第 32 回京都賞受賞者による講演会及び慈善晩餐会の開催に協力した。

3. 第 33 回(2017)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関委員の委嘱

2016 年 3 月 11 日開催の定時理事会において選任された第 33 回(2017)京都賞審査機関委員に対し、2016 年 11 月 11 日開催の第 33 回(2017)京都賞審査機関合同会議において正式に委嘱を行った。

(2) 推薦依頼書の発送

推薦依頼方針に基づいて、国内、海外の有識者に対し、推薦依頼書を 2016 年 7 月 1 日に発送した。

(3) 推薦の受付

2016年9月15日をもって推薦書の受付を締め切った。

(4) 京都賞審査機関による審査

各部門専門委員会を計12回、審査委員会を計5回開催した。

(審査委員会1回と京都賞委員会については2017年度に開催)

4. 第34回(2018)京都賞に関する事項

(1) 授賞対象分野の決定

2017年3月10日開催の定時理事会において、第34回(2018)京都賞授賞対象分野を次の通り決定した。

先端技術部門 : バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー

Biotechnology and Medical Technology

基礎科学部門 : 数理科学(純粋数学を含む)

Mathematical Sciences (including Pure Mathematics)

思想・芸術部門 : 美術(絵画・彫刻・工芸・建築・写真・デザイン等)

Arts (Painting, Sculpture, Craft, Architecture, Photography, Design, etc.)

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2017年3月10日開催の定時理事会において、第34回(2018)京都賞審査機関委員を選任した。

II. 助成事業

1. 2016年度研究助成に関する事項

(1) 2016年度研究助成金贈呈式の開催

開催日 : 2016年4月23日(土) 14:00

場所 : グランドプリンスホテル京都

出席者数 : 130名

内容 : 2016年3月11日の定時理事会において承認された50件に対し、総額5,000万円の贈呈を行った。また贈呈式に引き続いて、2016年度盛和スカラースォサエティ総会が開催され、京都大学 高等研究院 特別教授 松沢哲郎氏が「想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心」というテーマで講演を行った。

※附属明細1「2016年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

2. 2017 年度研究助成に関する事項

(1) 募集要項の発送

2016 年 5 月下旬に、全国国立大学法人、公立大学（選抜）、私立大学（選抜）、大学共同利用機関法人・その他研究機関（選抜）の合計 136 大学・機関宛に対して研究助成募集要項と申請書を発送した。なお、2017 年度分より従来の書面による申請を廃止し、申請者の利便性の向上と、受付業務の軽減および標準化を目的として導入したウェブ申請システムにより、助成金申請者数の増加を実現した。

(2) 応募の締切

2016 年 7 月 25 日をもって申請書の受付を締め切り、603 件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行った。

(3) 研究助成選考委員会による選考

2016 年 12 月 3 日と 12 月 10 日に研究助成選考委員会を開催し、50 件 5,000 万円の助成対象者を選考した。

(4) 研究助成対象者の決定と発表

2017 年 3 月 10 日開催の定時理事会において、2017 年度研究助成対象者及び助成金額を決定し、プレス発表を行った。

※附属明細 2「2017 年度研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(5) 研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2017 年度研究助成選考委員を下記の通り公表した。
(役職は公表時現在)

榊 裕之（委員長） 豊田工業大学 学長

[自然科学系]

甘利 俊一 理化学研究所 脳科学総合研究センター 特別顧問

巖佐 庸 九州大学 大学院理学研究院 教授

岡田 清孝 龍谷大学 農学部 教授

梶山 千里 福岡女子大学 理事長・学長

佐藤 文隆 京都大学 名誉教授

中西 重忠 京都大学 名誉教授

西田 栄介 京都大学 大学院生命科学研究科 教授

野田 進 京都大学 大学院工学研究科 教授

本庶 佑 静岡県公立大学法人 理事長

村上 正紀 学校法人立命館 理事補佐

森 重文 京都大学 高等研究院 院長・特別教授

[人文・社会科学系]

佐和 隆光 滋賀大学 特別招聘教授

田中 成明 京都大学 名誉教授

山室 信一 京都大学 人文科学研究所 教授

横山 俊夫 静岡文化芸術大学 学長

鷲田 清一 京都市立芸術大学 理事長・学長

3. 2018 年度研究助成に関する事項

(1) 研究助成選考委員の決定

2017 年 3 月 10 日の定時理事会において、2018 年度研究助成選考委員を選任した。

4. 2017 年度特別助成に関する事項

(1) 特別助成審査委員の決定

2017 年 3 月 10 日の定時理事会において、2017 年度特別助成審査委員を選任した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」に関する活動

2016 年 9 月 8 日（木）、米国オハイオ州のケースウェスタンリザーブ大学で開催された 2016 年稲盛倫理賞の副賞として日本人形を贈り、同センターの活動を支援した。

2. 英国「Kyoto Prize at Oxford」に関する活動

オックスフォード大学から提案された「Kyoto Prize at Oxford」プロジェクトを実現するために、大学に対して 550 万ポンドの寄附を実施し、2017 年 5 月に行われる京都賞受賞者による講演会、ワークショップ等のための準備活動を支援した。

3. 国際相互理解の増進及び学術振興に寄与する活動

(1) 米国京都賞受賞者シンポジウム共催大学への寄附

2015 年より再度 4 年間の寄附継続を合意した京都賞シンポジウム共催大学に対し、第 2 回 20 万ドル（1 校あたり 5 万ドル）の寄附を実施した。（4 年間で 4 大学総額 80 万ドルを寄附予定）

(2) 大阪大学大学院寄附講座への寄附

大阪大学大学院国際公共政策研究科が2012年4月1日設置した稲盛財団寄附講座「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション」に対して、最後となる第5回3,100万円の寄附を実施した。(5年間で総額1億5,500万円を寄附)

(3) 京都大学「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」への寄附

京都大学主催、稲盛財団共催で開催するシンポジウム「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」実施のため、最後となる第4回(2016年度分)3,000万円の寄附を実施した。(4年間で総額1億2,000万円を寄附)

尚、第3回目のシンポジウムは、2016年7月9日、10日の2日間にわたり、京都大学百周年時計台記念館他にて開催された。

(4) 京都大学「京都こころ会議(Kokoro Initiative)」への寄附

京都大学が、同大学こころの未来研究センターを中心に開催する「京都こころ会議(Kokoro Initiative)」への活動支援として、第2回1,500万円の寄附を実施した。

(6年間で総額9,000万円を寄附予定)

(5) 立命館大学「稲盛経営哲学研究センター」への寄附

立命館大学が大阪いばらきキャンパスに開設した、「稲盛経営哲学研究センター」において、東洋と西洋の思想・哲学の融合としての稲盛経営哲学を学術的に研究する趣旨に賛同し、その活動支援として500万円の寄附を実施した。

(6) 稲盛財団主催 松山バレエ団「新『白鳥の湖』」京都公演の開催

2016年8月16、17、18日の3日間、京都・岡崎のロームシアター京都において、稲盛財団主催による松山バレエ団「新『白鳥の湖』」京都公演を開催した。本事業は、稲盛財団設立30年の感謝と認知度向上を目的として実施し、全国から合計4,800名を無料招待した。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を下記の通り開催し、全ての議案が原案通りに承認された。

(1) 理事会

日 時 2016年5月27日(金)

議 案 ・2015年度(平成27年度)事業報告及び決算報告の件
・定時評議員会開催の件

- 日 時 2016年6月17日(金)
- 議 案
- ・第32回(2016)京都賞受賞者承認の件
 - ・京セラ株式会社第62期定時株主総会議決権行使の件
 - ・理事会規則および評議員会規則制定の件
- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件
 - ・サンディエゴでの第15回(2016)京都賞シンポジウムの件
 - ・「Kyoto Prize at Oxford」開催の件
 - ・松山バレエ団「新『白鳥の湖』」京都公演の応募状況について
 - ・財団 web サイトのリニューアルについて
 - ・ケースウエスタンリザーブ大学「2016年稲盛倫理賞」受賞者決定の件
 - ・第3回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP)開催の件
 - ・主要日程の件

- 日 時 2017年3月10日(金)
- 議 案
- ・第34回(2018)京都賞授賞対象分野の件
 - ・第34回(2018)京都賞審査に係わる委員選任の件
 - ・2017年度研究助成対象者並びに助成金額承認の件
 - ・2018年度研究助成選考に係わる委員選任の件
 - ・2016年度特別助成対象者並びに助成金額承認の件
 - ・2017年度特別助成審査に係わる委員選任の件
 - ・2017年度(平成29年度)事業計画及び収支予算の件
 - ・京都賞顕彰規程改定の件
 - ・定時評議員会開催の件(2017年6月)
- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の業務報告の件
 - ・第33回(2017)京都賞推薦状況報告の件
 - ・主要日程の件

(2) 評議員会

- 日 時 2016年6月17日(金)
- 議 案
- ・2015年度(平成27年度)事業報告及び決算報告の件
 - ・評議員会規則制定の件
- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件
 - ・サンディエゴでの第15回(2016)京都賞シンポジウムの件
 - ・「Kyoto Prize at Oxford」開催の件
 - ・松山バレエ団「新『白鳥の湖』」京都公演の応募状況について
 - ・財団 web サイトのリニューアルについて
 - ・ケースウエスタンリザーブ大学「2016年稲盛倫理賞」受賞者決定の件
 - ・第3回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP)開催の件
 - ・主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 第32回(2016)京都賞の各委員会

開催日	名称	議題
2016. 4. 2	京都賞思想・芸術部門 第2回審査委員会	候補者審査
2016. 4. 16	京都賞委員会	各部門受賞者審査

(2) 第33回(2017)京都賞及び2017年度助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2016. 11. 11	京都賞審査機関合同委員会	審査基本方針決定
2016. 12. 3	研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
2016. 12. 10	研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
2017. 1. 7	京都賞先端技術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2017. 1. 8	京都賞基礎科学部門 第1回専門委員会	候補者審査
2017. 1. 21	京都賞思想・芸術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2017. 1. 22	京都賞先端技術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2017. 1. 28	京都賞基礎科学部門 第2回専門委員会	候補者審査
2017. 2. 4	京都賞思想・芸術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2017. 2. 5	京都賞先端技術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2017. 2. 11	京都賞基礎科学部門 第3回専門委員会	候補者審査
2017. 2. 18	京都賞思想・芸術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2017. 2. 19	京都賞先端技術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2017. 2. 25	京都賞基礎科学部門 第4回専門委員会	候補者審査
2017. 3. 4	京都賞思想・芸術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2017. 3. 11	京都賞先端技術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2017. 3. 12	京都賞基礎科学部門 第1回審査委員会	候補者審査
2017. 3. 18	京都賞思想・芸術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2017. 3. 25	京都賞先端技術部門 第2回審査委員会	候補者審査
2017. 3. 26	京都賞基礎科学部門 第2回審査委員会	候補者審査

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	実施場所／配布先
2016. 4. 19	2016年度助成金贈呈式・盛和スカラーズソサエティ総会 取材のお願い：資料配布	関係記者クラブ
2016. 5. 9	「Kyoto Prize at Oxford」開催発表： オックスフォード大学・稲盛財団合同記者会見	日本外国特派員協会
2016. 6. 8	第32回京都賞受賞者発表記者会見案内：資料配布	関係記者クラブ

2016. 6. 17	第32回京都賞受賞者発表：記者会見	稲盛財団会議室
2016. 8. 3	稲盛財団主催 松山バレエ団「新『白鳥の湖』」京都公演 取材のお願い：資料配布	マスコミ関係者
2016. 9. 2	第32回京都賞記念講演会 聴衆募集のお知らせ：資料配布	関係記者クラブ
2016. 9. 20	「京都賞 RITA フォーラム」開催のお知らせ：資料配布	関係記者クラブ
2016. 9. 26	第32回京都賞ウイーク行事概要：資料配布	関係記者クラブ
2016. 11. 4	第32回京都賞ウイーク取材要項：資料配布	関係記者クラブ
2016. 11. 10	第32回京都賞受賞者共同記者会見	国立京都国際会館
2017. 3. 10	2017年度研究助成対象者発表：資料配布	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

下記の刊行物を発行し、関係先に配布した。

発行日	内容	発行部数
2016. 5	稲盛財団ニュース 89号	4,000部
2016. 7	稲盛財団ニュース 90号	10,000部
2016. 9	盛和スカラーズソサエティ会報 20号	1,700部
2016. 9	The Inamori Foundation Newsletter No.37	3,200部
2017. 1	稲盛財団ニュース 91号	5,200部
2017. 2	The Inamori Foundation Newsletter No.38	3,200部

(3) Facebook による情報発信

公式 Facebook ページ「京都賞 - Kyoto Prize」において、京都賞や稲盛財団に関連する情報を発信した。(計 58 回)

(4) ウェブサイトの運営

稲盛財団および京都賞の公式ウェブサイトを 2016 年 4 月に刷新し、スマートホンやタブレット PC 端末にも対応するレスポンスデザインを導入して、コンテンツの更新と充実を図った。

(5) JAL 機内誌「SKYWARD」の連載

2016 年 8 月から 2017 年 3 月までの連載企画として、京都賞歴代受賞者による「京都賞」紹介記事および「京都賞」特集記事を掲載した。

2016. 8	志村 ふくみ 氏 (第 30 回 (2014) 思想・芸術部門受賞者)
2016. 9	山中 伸弥 博士 (第 26 回 (2010) 先端技術部門受賞者)
2016. 10	安藤 忠雄 氏 (第 18 回 (2002) 思想・芸術部門受賞者)
2016. 11	大隅 良典 博士 (第 28 回 (2012) 基礎科学部門受賞者)
2016. 12	赤崎 勇 氏 (第 25 回 (2009) 先端技術部門受賞者)
2017. 1	坂東 玉三郎 丈 (第 27 回 (2011) 思想・芸術部門受賞者)
2017. 2	「京都賞」特集
2017. 3	「京都賞」特集

【 附属明細 1 】

2016年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	岡山大学 資源植物科学研究所 助教 イケダ ハジメ 池田 啓	植物の生殖的隔離を担う分子基盤の解明
	北海道大学 大学院工学研究院 助教 イシダ ヨウヘイ 石田 洋平	金属ナノクラスターを分子として用いる 新規人工光合成系の提案
	宮崎大学 テニューアトラック推進機構 テニューアトラック助教 イナバ ヤスコ 稲葉 靖子	呼吸ロバストな細胞システムを利用した 植物ミトコンドリア活性化因子の同定と機能解析
	名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授 イノマタ トモヒコ 猪股 智彦	イオン液体修飾基板と生物模倣型触媒を利用した 水からの高効率水素製造
	東京大学 大学院医学系研究科 特任助教 ウエダ カズタカ 上田 和孝	エストロゲンによる代謝恒常性制御機構の解明
	北海道大学 創成研究機構 特任助教 ウエハラ リョウタ 上原 亮太	細胞を二分する細胞膜変形の分子メカニズム
	理化学研究所 生命システム研究センター ユニットリーダー エビスヤ ミキ 戎家 美紀	自律的細胞パターン形成モデルの分子生物学的証明と リアルパラメータ探索
	大阪大学 大学院理学研究科 准教授 オオカワ シンノスケ 大川 新之介	非可換代数多様体に関する研究
	京都大学 大学院情報学研究科 助教 オオゼキ マサユキ 大関 真之	スピングラス理論を駆使した量子誤り訂正符号の 読み出しアルゴリズムの開発
	情報・システム研究機構 国立情報学研究所 准教授 カネコ メグミ 金子 めぐみ	同一周波数全二重通信機能を利用した 無線通信システムのためのプロトコル設計
	大阪大学 微生物病研究所 助教 キドヤ ヒロヤス 木戸屋 浩康	血管関連ミエロイド細胞による 血管移動の制御機構の解明
	九州大学 大学院医学研究院 助教 クニサキ ユウヤ 國崎 祐哉	加齢に伴う骨髄環境の変化による 造血器腫瘍発症機構の解明
	慶應義塾大学 医学部 教授 クボタ ヨシアキ 久保田 義顕	神経による網膜血管パターンニングの時空間的制御
	京都大学 霊長類研究所 准教授 ゴトウ ユキオリ 後藤 幸織	社会階級におけるモノアミンの役割と 精神疾患の進化的起源の解明
	北海道大学 大学院理学研究院 准教授 コバヤシ アツシ 小林 厚志	プロトン伝導性を可視化する 発光性配位高分子ナノ結晶の創出

	対象者	研究題目
自然科学系	東京大学 生産技術研究所 准教授 コバヤシ テツヤ 小林 徹也	理論進化生物学と理論神経科学を融合した生体適応の統一的理解
	東北大学 多元物質科学研究所 助教 コバヤシ マコト 小林 亮	新規透明導電膜の開発に向けた5価および6価金属ドーパTiO ₂ (B) 結晶の合成
	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 准教授 サカグチ マサノリ 坂口 昌徳	光遺伝学にて明らかにする睡眠中の記憶における新生ニューロンの機能
	和歌山県立医科大学 先端医学研究所 助教 ササキ イズミ 佐々木 泉	粘膜系免疫アジュバントコレラ毒素による炎症性サイトカインIL-1 β 産生誘導の分子機構の解明
	慶應義塾大学 環境情報学部 専任講師 (有期) サノ ヒトミ 佐野 ひとみ	統合的数理モデルに基づく難治性てんかん治療に向けた分子標的候補の予測
	理化学研究所 眞貝細胞記憶研究室 研究員 シマヅ タダヒロ 島津 忠広	ミトコンドリアタンパク質メチル化による脂肪酸代謝制御の解明:メチル化と代謝のクロストーク解明を目指して
	新潟大学 大学院医歯学総合研究科 特任准教授 シミズ イツペイ 清水 逸平	褐色アディポカインを介した新たな非アルコール性脂肪性肝炎の発症機構の解明
	岡山大学 大学院自然科学研究科 助教 スガ ミチヒロ 菅 倫寛	自由電子レーザーを用いた光合成の酸素発生反応における分子機構の可視化
	東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教 ダイガク ヤスカズ 大学 保一	ゲノム複製における誤りがちなDNAポリメラーゼによる突然変異生成機構の解明
	東京大学 大学院理学系研究科 助教 タカハシ トモコ 高橋 朋子	ヒト特異的なRNAサイレンシングと抗ウイルス反応のクロストーク
	福井大学 医学部 特命助教 タケウチ アヤコ 竹内 綾子	新規Cl ⁻ 輸送体によるCl ⁻ ダイナミクスーミトコンドリアとBリンパ球の機能連関の制御メカニズムの解明
	富山大学 大学院医学薬学研究部 助教 タケウチ ユウイチ 竹内 勇一	行動の左右性を支配する神経・遺伝基盤の解明
早稲田大学 高等研究所 助教 タナカ シュウ 田中 宗	量子アニーリングに基づく機械学習理論の研究	

	対象者	研究題目
自然科学系	東京大学 大学院医学系研究科 助教 ナカオカ シンジ 中岡 慎治	免疫系を記述するための新しい形式文法の研究
	筑波大学 医学医療系 助教 ニシムラ ケン 西村 健	iPS細胞誘導における Klf4 量依存的多能性獲得機構の解明
	大阪府立大学 21世紀科学研究機構 特別講師 ノウチ リョウ 野内 亮	分子スケールのスイッチング層を用いた タッチングセンサー原理の実証
	名古屋大学 大学院生命農学研究科 助教 ハシモト ミミ 橋本 美海	ゼニゴケを用いた重力応答の分子メカニズムの解明
	山口大学 大学院創成科学研究科 助教 (テニュアトラック) ハラ ユウキ 原 裕貴	機能的な核の構築に必要な細胞内環境要因の探索
	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所 特任准教授 ヒロタ ツヨシ 廣田 毅	新規化合物を用いた概日時計とガンとの関連の解析
	大阪大学 微生物病研究所 助教 フジタ トシツグ 藤田 敏次	ゲノム編集技術を応用した 新規な遺伝子座特異的ゲノム結合分子同定法の確立
	京都大学 数理解析研究所 講師 ホシ ユウイチロウ 星 裕一郎	p進Teichmuller理論に関わる双曲的代数曲線の 数論の研究
	東北大学 大学院理学研究科 准教授 マツバラ マサカズ 松原 正和	金属メタマテリアル構造を用いた 新規光ースピン制御機構の開拓
	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 教授 ヤナギダ タカユキ 柳田 健之	ハライド透明セラミックスシンチレータの開発
	筑波大学 生命領域学際研究センター 助教 ヤマシロ ヨシト 山城 義人	メカニカルストレス応答因子に着目した 大動脈瘤破裂を未然に防ぐ分子マーカーの解析
	神戸大学 医学部 教授 ワケ ヒロアキ 和氣 弘明	大脳灰白質における髄鞘化の学習に対する寄与
		小計 40件

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	大阪大学 大学院法学研究科 准教授 アオキ ヒロヤ 青木 大也	デジタルデータとしての製品デザインの 知的財産法による保護
	名古屋大学 大学院経済学研究科 准教授 アダチ タカノリ 安達 貴教	広告活動の理論的・実証的分析：産業経済学的視点から
	立命館大学 政策科学部 准教授 ウエハラ タクロウ 上原 拓郎	里海の実現に向けた実用的な サステナビリティ評価手法の構築とその検証： 岡山県日生町を事例として
	人間文化研究機構 国文学研究資料館 教授 カンサク ケンイチ 神作 研一	カリフォルニア大学バークレー校三井文庫 貴重書解題目録の編刊
	筑波大学 人文社会系 准教授 シダ タイセイ 志田 泰盛	中世インドにおける刹那滅論争史と無常観の 東漸に関する研究
	新潟大学 教育・学生支援機構 准教授 チョウ ウン 張 雲	国際関係における戦略認知と外交政策の関連性に関する 理論的・実証的研究－中国の対日外交を中心に
	名古屋市立大学 大学院芸術工学研究科 准教授 ナカガワ リュウ 中川 隆	タブレット端末用音楽創作ソフトウェアが創り出す 新しい場
	日本大学 経済学部 准教授 ナカムラ ヤスヒコ 中村 靖彦	混合寡占市場における公企業および私企業の 長期的な意思決定－合併と競争構造－
	名古屋大学 高等研究院 特任助教 ヨシダ サユリ 吉田 早悠里	オーストリアの博物館が所蔵する20世紀初頭の エチオピア民族誌的資料のデジタル化と目録作成
	筑波大学 体育系 助教 リ チャヌ 李 燦雨	江戸時代における渡来武術に関する研究 －瀬戸内海に伝わる近世朝鮮武術に着目して－
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、発表時。

【 附属明細 2 】

2017年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	京都大学 大学院工学研究科 講師 アオイ シンヤ 青井 伸也	多脚ロボットの分岐を用いた新しい制御法の開発
	名古屋大学 理学部 講師 アゲタ ナツミ 上田 奈津実	空間パターンセパレーションにおけるセブチン細胞骨格の役割
	山形大学 農学部 助教 アボシ タカコ 網干 貴子	殺虫ペプチドPA1bに対する鱗翅目幼虫の適応機構の解明
	新潟大学 理学部 助教 イイダ ミドリ 飯田 碧	水生生物にみられる通し回遊現象の成立・維持メカニズム
	京都大学 大学院工学研究科 助教 イシイ リョウタ 石井 良太	顕微光音響分光法を用いた深紫外発光ダイオードにおける非発光過程の可視化
	北海道大学 大学院工学研究院 助教 イソノ タクヤ 磯野 拓也	有機酸塩： 次世代の脂肪族ポリエステル合成触媒システム
	京都大学 大学院理学研究科 講師 イチカワ マサトシ 市川 正敏	ブレブ運動する再構成人工アメーバの創生と運動メカニズムの解明
	大阪大学 大学院生命機能研究科 助教 イナガキ ミキオ 稲垣 未来男	神経生理と機械学習を組み合わせたアプローチによる皮質下の視覚情報処理メカニズムの解明
	自然科学研究機構 生理学研究所 助教 オオタニ テツヒサ 大谷 哲久	上皮極性における密着結合の役割の解明
	慶應義塾大学 医学部 講師 オカベ ケイスケ 岡部 圭介	Lrrc33欠損に伴うミクログリアの異常活性化と精神神経疾患発症との関連
	東北大学 多元物質科学研究所 助教 オニヅカ カズミツ 鬼塚 和光	化学的RNA切断能を持つ人工核酸の開発
	大阪大学 大学院医学系研究科 助教 オマツ ヨシキ 尾松 芳樹	造血幹細胞・前駆細胞ニッチの発生および機能に必須の新規分子の探索
	佐賀大学 大学院工学系研究科 助教 オヤマダ ジュウゾウ 小山田 重蔵	多環芳香族化合物の簡便な合成法をめざした炭素-水素結合カップリング反応の開発
	山口大学 大学院創成科学研究科 助教 カワモト タクジ 川本 拓治	反応活性種の精密制御によるバイオマスの有効利用
	立命館大学 総合科学技術研究機構 特別招聘研究教員(准教授) キタバ イクコ 北場 育子	1万5000年前の地球温暖化は、どこで始まりどう伝わっていったか

	対象者	研究題目
自然科学系	京都工芸繊維大学 大学戦略推進機構系 講師 キタムラ キョウコ 北村 恭子	フォトニック結晶レーザによる 先進的微小集光光源の研究
	静岡県立大学 大学院薬学研究院 助教 クレバヤシ ユウキ 紅林 佑希	ヒト癌細胞における希少シアル酸Neu5Gcの 獲得機構の解明とその制御に関する研究
	東京大学 生産技術研究所 助教 コミヤマ ジュンペイ 小宮山 純平	任意停止時間の最適逐次推論
	東京大学 大学院工学系研究科 助教 シガ タクマ 志賀 拓磨	高効率熱電材料のためのフォノンコヒーレント制御
	金沢大学 医薬保健研究域 准教授 シンミョウ ヨウヘイ 新明 洋平	draxinの神経回路・脳回形成における役割と 分子機構の研究
	東京大学 生産技術研究所 准教授 スナダ ユウスケ 砂田 祐輔	生体・環境に負荷を与えない天然資源の有効活用を 実現する鉄触媒の開発
	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 助教 タカツカ ヒロトモ 高塚 大知	植物の活発な細胞成長の基盤となる極性成長の 分子メカニズムの解析
	京都大学 大学院工学研究科 准教授 タナベ カツアキ 田辺 克明	超高効率太陽電池の実現に向けた単原子層材料を介する 新規高性能半導体接合技術の創出
	東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教 ナカジマ ユウイチロウ 中嶋 悠一朗	分裂期スピンドル方向の異常が誘導する 上皮腫瘍形成原理の解明
	高知大学 教育研究部 特任助教 ナンバ タクシ 難波 卓司	ミトコンドリアの恒常性を維持する 小胞体-ミトコンドリア情報交換機構の解明
	東京大学 大学院総合文化研究科 助教 ニイ ヨウイチ 新居 陽一	キラリティを有する磁性物質における 一方向熱伝導現象の探索
	北海道大学 大学院医学研究科 教授 ニシウラ ヒロシ 西浦 博	理論進化生物学的手法を活用した 感染症のスーパープレッダーの特定手法の開発
	筑波大学 生命領域学際研究センター 助教 ニシムラ アイコ 西村 亜衣子	マウス表皮幹細胞の老化メカニズムの解明
	名古屋工業大学 大学院工学研究科 助教 ノブカワ ショウゴ 信川 省吾	高分子ガラス中のアゾベンゼンの光異性化に対する 空間場の影響の解明

	対象者	研究題目
自然科学系	名古屋大学 高等研究院 特任助教 ハチヤ タクシ 蜂谷 卓士	アンモニア耐性株を利用した アンモニア毒性メカニズムの解析
	東京理科大学 生命医科学研究所 助教 ハニウダ ケイ 羽生田 圭	B細胞の代謝制御による免疫記憶形成機構の解明
	名古屋工業大学 大学院工学研究科 助教 フチガミ テルアキ 湊上 輝頭	ウニ状ニオブ酸化物ナノ粒子の高機能性触媒
	神戸大学 大学院理学研究科 准教授 マツバラ リョウスケ 松原 亮介	一酸化窒素の超局所的投与を可能にする 実験ツールの開発：神経疾患病理解明へのアプローチ
	山口大学 大学院創成科学研究科 助教 ヤマブキ カズヒロ 山吹 一大	高容量次世代硫黄二次電池の開発
	北海道大学 電子科学研究所 助教 ユスツプ マルコ ユスツプ マルコ	生物資源のロボスト管理のための数理生物学
	東北大学 電気通信研究所 助教 ヨコタ ノブヒデ 横田 信英	InAlGaAs量子井戸における電子スピン緩和機構の解明
	東京大学 大学院理学系研究科 助教 ヨシタネ ヒカリ 吉種 光	A-to-I RNA編集酵素ADAR2がRNAを 質的・量的にリズム制御する
	東京大学 大学院数理科学研究科 准教授 ヨネダ ツヨシ 米田 剛	ナビエ・ストークス方程式の爆発問題の解明に向けた 渦の非線形相互作用に対する大規模数値計算
	千葉大学 大学院工学研究科 准教授 ワジマ タカアキ 和嶋 隆昌	月面岩石を用いた新しいセメントの開発
	九州大学 エネルギー基盤技術国際教育研究センター 助教 ワタナベ コウスケ 渡邊 厚介	カルコパイライト型Cu-In-S系化合物の熱電特性

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	名古屋大学 高等研究院 特任助教 イチカワ アキラ 市川 彰	中米エルサルバドルにおける先スペイン時代の石製建造物の修復保存に関する実践的研究
	東京外国語大学 世界言語社会教育センター 特任講師 オオイシ タカノリ 大石 高典	森林産物交易は森と地域社会をどう変えたかーアフリカ熱帯雨林の歴史生態学とグローバル・ヒストリー
	横浜市立大学 学術院国際総合科学群 講師 クロキ マコト 黒木 淳	医療機関の財務健全性の推定と将来予測： 横浜市内医療法人現況報告書を用いた実証分析
	京都大学 大学院法学研究科 准教授 コンドウ ケイスケ 近藤 圭介	スコットランド法理論のグローバル化対応とその国制的背景ー ニール・マコーミックの法理論と政治活動の統合的考察
	愛媛大学 法文学部 講師 ナカガワ ミライ 中川 未来	近代日本の地域振興と「草の根」のナショナリズム形成に関する思想史的研究
	九州大学 大学院芸術工学研究院 助教 ニシダ ヒロコ 西田 紘子	学際的アプローチによる弦楽四重奏団の音楽づくりプロセスの解明
	九州大学 大学院芸術工学研究院 准教授 フジタ ナオコ 藤田 直子	熊本地震の地理空間分析を元にしたグリーンインフラの形成に関する研究：ランドスケープ遺産が示すもの
	慶応義塾大学 経済学部 教授 ホシノ タカヒロ 星野 崇宏	消費行動の精緻な理解のためのビッグデータと公的統計の統計的データ融合
	一橋大学 経済研究所 講師 マスダ カズヤ 増田 一八	アフリカにおける乳幼児の栄養不良改善と認知機能の向上：マイクロ計量経済学的手法を用いた実証研究
	東京工業大学 環境・社会理工学院 助教 ミヤモト アキコ 宮本 明子	国内映画台本のアーカイブ化に向けた基礎的研究
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、申請時。